

No.22

2006.2.1

いしかわの遺跡

古代住居修築体験講座

「古代の住まいを考える」開催



古代ふれあい体験事業の新しい講座として、古代体験ひろばの復元住居を会場に平成17年8月に開催しました。弥生時代の復元住居を例にとり、現状の観察や実際の修理作業体験等を通して、古代の住まいについて考える機会となりました。第2回講座で行った土甍^{つちぶ}き住居の屋根下地となる茅葺^{かやぶ}き作業では、親子や大学生等の参加者は茅束の扱いや縄の縛り方など慣れない作業に最初のうちは苦心していましたが、次第に参加者の連携もスムーズになり、きれいな下地ができあがりました。

財団法人 石川県埋蔵文化財センター

Ishikawa Archaeological Foundation

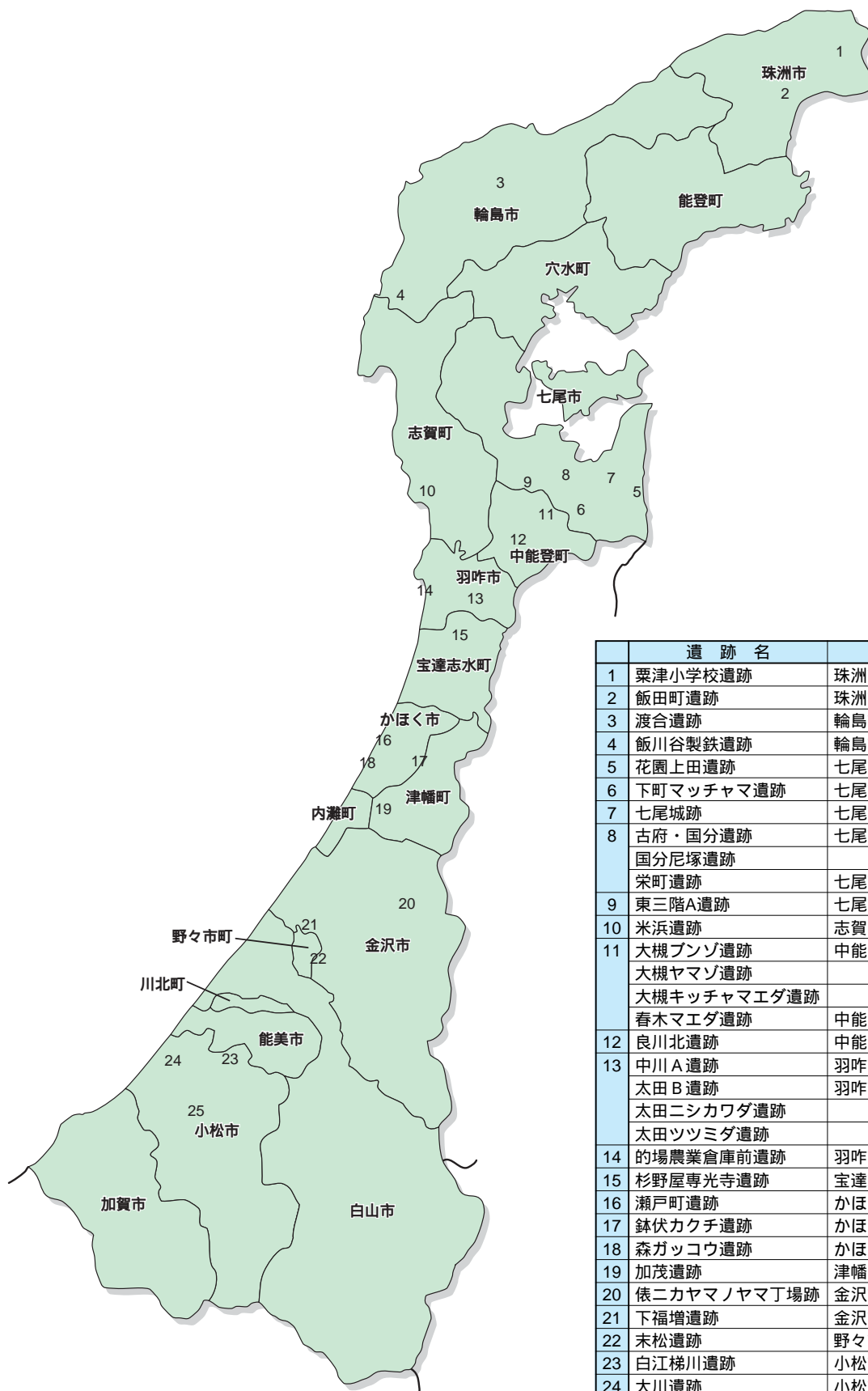
〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1

TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731

E-mail mail@ishikawa-maibun.or.jp

ホームページ <http://www.ishikawa-maibun.or.jp/>

平成17年度 発掘調査遺跡



遺跡名	所在地
1 粟津小学校遺跡	珠洲市三崎町粟津
2 飯田町遺跡	珠洲市飯田町
3 渡合遺跡	輪島市三井町渡合
4 飯川谷製鉄遺跡	輪島市門前町飯川谷
5 花園上田遺跡	七尾市花園町
6 下町マツチャマ遺跡	七尾市下町
7 七尾城跡	七尾市古屋敷町・古城町他
8 古府・国分遺跡	七尾市国分町
国分尼塚遺跡	〃
栄町遺跡	七尾市栄町
9 東三階A遺跡	七尾市東三階町
10 米浜遺跡	志賀町米浜
11 大槻ブンゾ遺跡	中能登町大槻
大槻ヤマソ遺跡	〃
大槻キツチャマエダ遺跡	〃
春木マエダ遺跡	中能登町春木
12 良川北遺跡	中能登町良川
13 中川A遺跡	羽咋市中川町
太田B遺跡	羽咋市太田町
太田ニシカワダ遺跡	〃
太田ツツミダ遺跡	〃
14 的場農業倉庫前遺跡	羽咋市の場町
15 杉野屋専光寺遺跡	宝達志水町杉野屋
16 瀬戸町遺跡	かほく市瀬戸町
17 鉢伏カクチ遺跡	かほく市鉢伏
18 森ガッコウ遺跡	かほく市森
19 加茂遺跡	津幡町加茂
20 儀二カヤマノヤマ丁場跡	金沢市儀町
21 下福増遺跡	金沢市福増町
22 末松遺跡	野々市町末松
23 白江梯川遺跡	小松市白江町
24 大川遺跡	小松市大川町
25 ニツ梨グミノキバラ遺跡	小松市ニツ梨町

古代住居修築体験講座

平成17年8月に行われた講座の様子を紹介します。土葺き屋根は雨水がたまりやすく、建物内部の湿気がこもりがちです。そのため、下地の茅や屋根部材もはやく傷みます。講座ではどのように傷んでいるかを見学し、茅葺き職人やセンター職員の指導により、茅下地の取り付け作業の体験を行いました。また、奈良時代の復元住居等では茅がいたんできたすき間を埋める差し茅作業や斧の使用体験も行いました。



土と茅を取り除き、木組みの状態で見学・解説会。(第1回講座)



屋根の土を除けた後、古くなった茅の下地を取り除いています。



腐朽した入口、母屋、垂木等の部材を交換し取り付けました。



茅束を一つずつ垂木たるきに縛っていきます。(第2回講座)



下層は横葺き、上層は縦葺き、厚さ合計約20cmの茅下地が完成。



すき間をヘラで起こし、茅を詰める差し茅作業。(第2回講座)



厚さ約30cmの土をかぶせて完了。

平成16年度発掘調査から

森ガッコウ遺跡



大型の建物



板で護岸された水路



墨書土器出土状況

森ガッコウ遺跡はかほく市森地内、森集落から北に200m程離れた水田中に広がっています。遺跡の北東側の水田部には鉢伏浄水場遺跡、南側には森城跡が、また南東側の丘陵上には、国指定史跡の縄文遺跡、上山田貝塚があり、その他周辺域にも多数の遺跡が分布しています。

発掘調査は県営ほ場整備事業の排水路、パイプライン敷設工事に伴うものです。調査区の幅が1.5~2mと狭く、遺跡の全容をとらえるまでにはいたりませんでした。いろいろな遺構・遺物が確認されました。

遺跡は奈良・平安時代の集落跡です。発掘調査では建物の柱穴が多数見つかりました。その中には1辺が90cm程の大きな柱穴で構成される掘立柱建物跡があり、柱と柱の間隔は約270cm、建物跡の規模は810cm×540cm程と想定しています。当時としてはかなり立派な建物といえます。また、柱穴の中には先の建物跡も含め東西、南北に並ぶものがいくつかあり、ある時期、整然とした形で建物が建ち並んでいたことが想定できます。

他には多数の溝が見つっていますが、その中に幅5m程で分厚い板で護岸されていた水路があります。集落の東限を示す水路であると考えられ、中からは多量の須恵器、土師器が出土した他、「干」及び「壬（あるいは千一）」と書かれた墨書土器をはじめ、単位の「石」のみを残す付札と推定される木簡、斎串なども出土しました。

近年、河北潟東岸では津幡町加茂遺跡、北中条遺跡、かほく市指江B遺跡など、大型の建物があり、木簡、斎串、墨書土器などを出土する遺跡が見つかりました。これらは古代の官道に沿って位置しており、官道沿いにどのような集落が存在したのか関心が持たれます。

国分B遺跡

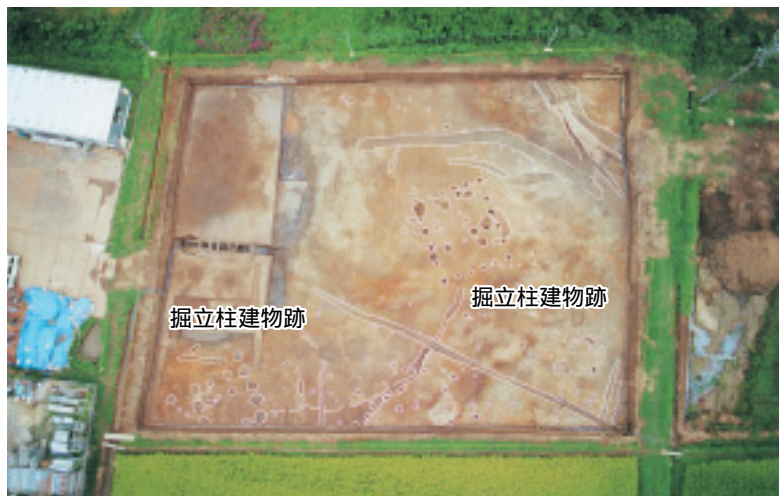
国分B遺跡は能登半島のほぼ中央部に位置する七尾市国分町に所在し、石動山系を源とする御祓川下流域の丘陵裾部にあたります。遺跡周辺には弥生時代から中世にかけての遺跡が点在しており、南方の丘陵上には国分尼塚古墳群が立地し、更に、南東約1kmには能登国分寺跡、東方には古代の公的施設の存在が想定されている栄町遺跡があります。

発掘調査は一般国道249号改良工事に伴うものであり、弥生時代から中世にかけての掘立柱建物跡、井戸、溝などが確認できました。古墳時代から古代の掘立柱建物跡は4棟以上確認でき、そのなかで最大のものが5間×5間（8m×6m）規模の建物跡です。

溝からは多数の土器や木製品が出土しました。弥生時代後期後半の溝からは、完形の小型壺や高坏などがまとまって出土しており、古墳時代と平安時代の溝からは土器と共に農具と思われる木製品や曲物の底板などが多く出土しました。また、河跡からは古墳時代後半の須恵器や土師器の坏、蓋、甕、高坏、カマドなどが出土しました。本遺跡は、弥生時代から中世にかけて営まれた集落跡であり、その中心は古墳時代と考えられます。



遺跡遠景



調査区全景



弥生土器出土状況



土器・木製品出土状況

古代体験ひろばの樹木

平成13年にオープンした古代体験ひろばには多くの樹木が植えられています。オープン当初は若木や幼木ばかりでしたが、5年間に少なからず成長が見られます。面積約13,200m²の古代体験ひろばの植栽について紹介しましょう。ここでは、石川県の各時代を代表する植生について学習できるように、「温暖」・「溫和」・「冷涼」の気候によって各時代を分類し、三つのゾーンに分けて植栽を行っています。



溫和な気候の植生
〔縄文時代中期、古墳時代～現在〕

ひろばの入口から中程にかけての遊歩道に沿った区域です。縄文時代中期、古墳時代～現在の「溫和」な気候の植生ゾーンです。照葉樹（常緑広葉樹）と夏緑広葉樹（落葉広葉樹）が混生しており、照葉樹の割合は現在くらいでした。実際に植えられている樹木はスダジイ、タブノキ、ヤブツバキ、モチノキ、トベラ、ヒサカキ、ヤブニッケイ、ネズミモチ、ケヤキ、アカマツです。夏緑広葉樹（落葉広葉樹）のコナラ、クヌギ、クリ、針葉樹のモミについては省いています。

冷涼な気候の植生
〔縄文時代後期～弥生時代〕

ひろば北西端にあたる復元古窯、体験農園から弥生時代の復元住居にかけての区域は、冬季の季節風等が強いため、縄文後期～弥生時代の「冷涼」な気候の植生ゾーンとしています。気候は現在の山形県～秋田県に相当します。夏緑広葉樹が主で、現在の石川県では標高300～600m位に生育する植物が主体です。アカマツ、コナラ、クヌギ、クリ、ケヤキ、コブシ、タニウツギ、スギ、ヤマツツジ、ブナ、トチノキが植えられています。

温暖な気候の植生
〔縄文時代前期〕

縄文時代の復元住居まわりは、縄文時代前期の「温暖」な気候の植生ゾーンとしています。当時は暖温帯照葉樹、常緑広葉樹の専有面積が今より広く、夏緑広葉樹が混生しており、現在の四国、九州に相当します。植栽した樹木はスダジイ、タブノキ、ヤブツバキ、モチノキ、トベラ、ネズミモチ、クロガネモチ、イヌマキ、ヤマモモ、クチナシの他、堅果類が採集できるようにトチノキ、クリ、マテバシイ、サワグルミを加えています。

旧石器時代から縄文時代早期にかけては「寒冷」な気候で、現在の青森県から北海道南部に相当します。標高約100mの埋蔵文化財センター付近では生育困難な樹木が多く、残念ながら見ることはできません。

ドングリ類の木に囲まれた復元住居一帯で、体験学習が行われる日はそう遠くはないと思われます。これらの樹木の成長が期待されます。



収蔵品ギャラリー

当センターが保管している数多くの出土品等の中から選りすぐりの資料をご紹介します。今回は「低湿地の遺跡」をテーマに選んでみました。

収蔵品 3

へい ち しき た て も の ね
平地式建物根がらみ木柱根

もくちゆうこん

金沢市戸水B遺跡

古代体験ひろばの弥生時代の復元住居のモデルとなった平地式住居の柱根と枕木です。低湿地の地面に穴を掘り柱を立てる場合、地盤が軟弱なために柱がずれたり沈下しやすく、その結果建物が傾いたり、壊れてしまうおそれがあります。柱の下端を「コ」の字にえぐり込み、まくらぎ枕木をはさみ込んでいます。枕木にもえぐりを入れて、組み合わせを堅固にしています。柱の下端近は縄をかけて運搬するためにくびれさせています。樹種はコナラ節と同定されています。



収蔵品 4

貝塚の土層

七尾市三引遺跡

縄文時代前期初頭（約6,000年前）の貝塚の断面を薄くはぎ取ったものです。幅4m、高さ2mの大きさがあり、埋蔵文化財センターのホールで展示しています。この貝塚は当時の海岸付近の低湿地にできましたが、その後この上部に2m以上の土砂が堆積しています。貝殻、獣や魚の骨、木の実、こわれた土器や石器が見事に残っています。

1998年に特殊な方法で現地から持ち帰ってきました。



訪ねてみよう加賀・能登の遺跡

国指定史跡 チカモリ遺跡

金沢市西南部にある縄文時代後・晩期の集落遺跡です。出土した土器は「八日市新保式土器」と呼ばれ、知られていました。昭和55年（1980年）直径約80cmほどのクリの木を縦に半分に分った巨大な木柱を直径約7mの環状に立て並べた環状木柱列が発見され、縄文人の木工技術の高さを示すと共に、その性格を巡って注目を集めました。環状木柱列はその後、石川県真脇遺跡でも発見され、チカモリ遺跡は昭和62年に国史跡に指定されました。現在は史跡公園として整備され、高さ2mに復元した木柱が環状に立てられ、当時の様子が再現されています。環状木柱列は柱の根元が残るだけで上部の構造は推測するしかありません。そのため、儀礼の場や特殊な建物などいろいろな考えが出されていますが、今のところはっきりとはしていません。

公園の横に建てられた金沢市埋蔵文化財収蔵庫の1階には、チカモリ遺跡から出土したたくさんの木柱根が水槽の中で保存展示されているほか、金沢市内の遺跡から出土した縄文時代の遺物が展示されています。2階には市内の遺跡から出土した弥生時代の土器、古墳時代～平安時代の須恵器、木製の農具などが展示されています。



遺跡公園



復元された環状木柱列



収蔵庫

チカモリ遺跡

交通 金沢市香林坊から北鉄バス「上荒屋ゆき」新保本下車、徒歩10分
北陸自動車道金沢西ICから車10分
所在地 金沢市新保本5丁目地内
お問い合わせ 金沢市都市政策局文化スポーツ部文化財保護課
電話 076-220-2469

金沢市埋蔵文化財収蔵庫

開館 午前9時30分～午後4時30分（毎週火曜日、12月29日～1月3日は休館、他に臨時休館あり）
入館料 無料
所在地 金沢市新保本5丁目48番地（チカモリ遺跡公園隣接地）
お問い合わせ 電話 076-240-2371